

【当日投句】入賞作品

文部科学大臣賞

引揚げの哀史の埤頭小鳥来る

長崎県 松本 洋子

国民文化祭実行委員会会長賞

鴟猛る一樹の視野に海の紺

長崎県 籾先 四十三

長崎県知事賞

踏み入りて秋の声聞く無窮洞

長崎県 前田 詠子

佐世保市長賞

九十九島をがりがりかじる秋の波

長崎県 入口 弘徳

(公社) 俳人協会会長賞

九十九島緩く傾げて鷹渡る

長崎県 相川 正敏

(一社) 現代俳句協会会長賞

行列のうわさのバーガー秋うらら

長崎県 鶴田 弘子

(公社) 日本伝統俳句協会会長賞

秋風に洞握る子らの声を聞く

長崎県 畠本 孝子

【当日投句】選者別入選作品

牛飼 瑞栄 選

引揚げの哀史の埠頭小鳥来る

長崎県 松本 洋子

〔選評〕

浦頭の引揚港も今は大型客船の着く港に変貌した。そうして、小鳥が来る
平和な時代であることに作者の安堵感が漂う。

烏帽子岳駆け上りゆく紅葉かな

長崎県 古賀 徹子

〔選評〕

佐世保を代表する烏帽子岳が粧う山となり、紅葉が一気に色づいてゆく
景色が見える。

地虫鳴く学童握りし洞の跡

長崎県 小川くみ子

〔選評〕

無窮洞の哀史に感じ入った作者の耳に確かに地虫の鳴く声が聞こえたので
ある。

大石 靖子 選

秋風に洞握る子らの声を聞く

長崎県 畠 本 孝子

〔選評〕戦争末期に、先生と生徒等で掘ったという防空壕の無窮洞。彼等の団結した、強い精神力を感じる。その背景にある戦争を思うと、虚しさを感じて止まない。

無線塔昭和百年秋の声

長崎県 牛 飼 瑞 栄

〔選評〕「昭和百年」の中七のフレーズが、説得力を持って、本句の要となり、時代を詠んで巧い。

居酒屋は防空壕跡秋暑し

長崎県 川 岡 末 好

〔選評〕佐世保の街中にある防空壕跡地に、いろんなお店が並んでいる。現代との融合が素晴らしい。

角谷 昌子 選

九十九島緩く傾げて鷹渡る

長崎県 相川 正敏

〔選評〕 渡りの鷹たちが、九十九島を大空から俯瞰する視点を捉え、中七の「緩く傾げて」に臨場感がある。

小鳥来るオスプレイ来る基地の街

長崎県 芝崎 せい子

〔選評〕 基地にはさまざま軍機も飛来し、その中にはオスプレイもある。季語の小鳥の平和の象徴にアイロニーがある。

秋陽濃し潮照り展ぐ九十九島

長崎県 永野 潤子

〔選評〕 秋陽の金色の輝きを潮照りと描いて、詩情がある。九十九島を見渡す広々とした時空が捉えられた。

倉田明彦選

歴史とは人の手の跡泡立草

福岡県 川崎 智美

〔選評〕人の住む町に荒地が広がり、背高泡立草が茂る。人の手の入った跡が、背高泡立草の野だ。

秋の雲支へるやうに無線塔

長崎県 山口黒邑子

〔選評〕針尾の三本の無線塔。役割を終えた今も、高く聳えて高い秋空を支えるよ
うだ。

九十九島島の数だけ秋ありて

長崎県 西川紀代子

〔選評〕島それぞれに紅葉し、青い海に秋を散りばめたようだという。佐世保らしい句。

西史紀選

鴟猛る一樹の視野に海の紺

長崎県 簗先四十三

〈選評〉

「対比」という技巧を駆使して一句を構成している。「鴟猛る」の聴覚と「海の紺」の視覚の対比。鴟の止まる樹の頂きと海という、高低の対比。鴟という小さな生き物と、その視野に入れられた広い広い海という、大小の対比だ。

無窮洞出でて秋空ただ青し

長崎県 瀬戸あかり

〈選評〉

見学で洞の中に入り、その歴史の重みに圧倒された作者が、洞を出て、今自分をとりまく平和な秋空をありがたく仰ぎ見ている。「ただ青し」の「ただ」にこもっている気持ちだが、読む者の共感を呼ぶ。

秋寂ぶや工具の語る「無窮洞」

長崎県 吉丸京子

〈選評〉

人は、「無窮洞」の何の声を聞くか？石の教壇の声。排気溝の空気の声、山水がしみておちる滴りの声……。作者は「工具の語る」と詠んだ。工具は、それらを使って洞を掘った児童たちの掌の声を伝えてくる。

福本 弘明 選

行列のうわさのバーガー秋うらら

長崎県 鶴田 弘子

〔選評〕

佐世保といえはハンバーガー。有名店の盛況ぶりは、行楽日和と相まって大いに納得する光景。

九十九島は神の飛石天高し

長崎県 松本 洋子

〔選評〕

神の仕業としか思えない九十九島の島々の配置と景観を秋天下に見る感動。

汐風のジャズの街角秋燕

長崎県 吉田 志津子

〔選評〕

南に帰ってしまふ燕とジャズの哀愁感が重なる。心地よい汐風がジャズの街によく似合う。

前川 弘明 選

引揚げの哀史の埤頭小鳥来る

長崎県 松本 洋子

〔選評〕戦争に敗けて身も心も疲れ果てて引揚げの人に鳴く小鳥たちの喜びと哀しみ。

聖堂のガラスの映す秋の影

長崎県 外輪 ふみえ

〔選評〕さみしい秋の陽を映す聖堂の姿

百年を語る無線塔秋高し

長崎県 永野 潤子

〔選評〕百年もの長い時間を支えた塔が立つ美しい秋の空

松本 洋子 選

秋を見に九十九島の島巡り

長崎県 吉村 博司

〔選評〕 名にし負う九十九島。四季折々の姿は感動もの。さて秋潮に浮かぶ島々の景は、と心躍るものがある。願わくば、鳶にでもなつて回遊したいものである

踏み入りて秋の声聞く無窮洞

長崎県 前田 詠子

〔選評〕 手掘りの洞である。もしも我が子がと、置き換えて思う時なお身に入む。「秋の声」に集約される作者の思いが深い。

渡来せし蜜柑佐世保の色となる

長崎県 白石 彌生

〔選評〕 針尾の蜜柑とは美味しさで有名である。潮風と豊かな日射しの恩恵に他ならない。

三好 勝利 選

九十九島をがりがりかじる秋の波

長崎県 入口 弘徳

〈選評〉 打ち寄せる波の力の強さが表現されており、自然の力の偉大さが表わされて

います

秋の空喧嘩ごしなるさせば弁

長崎県 宮本 郁水

〈選評〉 させばの喧嘩ごしなる言葉もこの地方の方言と思へばいずれ慣れると思います。

※選者の希望により、二選となっております。